20　　の家 　　　　　　　　　　　　助詞⑥　終助詞・間投助詞

扇を笛に吹き給へアる夕映えの御かたち、まことに光るやうなるを、半蔀に集まりて見奉りめづる人々ありけり。御車など、今は大人しくなり給へれど、御供の御随身などはいと若うをかしげになべてならず見ゆるを、「あはれ、あれが身にてだにＡ（あり）ばや。何事を思ふらむ」と、若き人はめでまどひて、過ぎ給ふもなほ飽かねば、軒の菖蒲を一筋引き落として急ぎ書きてはしたもののをかしげなるして、追ひて奉る。後れて走る御随身に取らせて帰るを、「Ⅰいづこよりとか申さむ。やがて御車に参り給へ」とてとらへつ。ご覧ずれば、

　しらイぬまのあやめはそれと見えずとも蓬がもとは過ぎずもＢ（あり）なむ

とぞ書きたる。「いかなるすき者ならウむ」とほほゑみて問はエせ給へど、Ⅱ言はむやは。

【本文チェック】

①　ア～エの助動詞の、文法的意味を〔　〕に書きなさい。

ア〔　　　　　　〕　イ〔　　　　　　〕　ウ〔　　　　　　〕　エ〔　　　　　　〕

②（　）Ａ・Ｂの「あり」を、正しく活用させて（　）に書きなさい。

Ａ（　　　　　　　）　Ｂ（　　　　　　　）

③傍線部Ⅰ・Ⅱを現代語訳し、（　）に書きなさい。

Ⅰ（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

Ⅱ（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。＊〔数字〕はノート本冊での本文の行数を表す。

１　かたち〔１〕　（　　　　　）

２　めづ〔２・４〕　①（　　　　　　）

　　　　　　　　　　②かわいがる

問２　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　も、の見たまはざらむをあかずさるれば、を御前にてせさせたまふ。（源氏物語）

ア　並々でなく　　イ　言うまでもなく

ウ　不愉快に　　　エ　物足りなく

（　　　）

２　さるべくおとなしき人々、なにがしかがしといふいみじき源氏のたちをこそ、御送りに添へられたりけれ。（大鏡）

ア　思慮分別がある　　イ　身分の高い

ウ　ふさわしい　　　　エ　物静かな

（　　　）

【文法力 ✚】

問３　次の傍線部の説明として適当なものを、後から選べ。

１　あやまちすな。心して下りよ。　（徒然草）

２　用ありて行きたりとも、その事果てなば、とく帰るべし。（徒然草）

３　この影を見れば、いみじう悲しな。（更級日記）

４　いみじき目な見せたまひそ。（源氏物語）

ア　副詞　　　　　　イ　完了の助動詞「ぬ」の未然形

ウ　禁止の終助詞　　エ　詠嘆の終助詞

１（　　　）　　２（　　　）　　３（　　　）　　４（　　　）

問４　次の文から間投助詞を抜き出し、意味用法を後から選べ。

１　少納言よ、の雪いかならむ。（枕草子）

（　　　　・　　　）

２　つひに行く道とはかねて聞きしかど昨日今日とは思はざりしを　（伊勢物語）

（　　　　・　　　）

ア　詠嘆　　イ　呼び掛け

問５　次の傍線部を現代語訳せよ。

１　これにみづから侍りと、な人に知らせ給ひそ。（宇治拾遺物語）

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

２　「、とく参らなむ」とおぼす。（源氏物語）

（　　　　　　　　　　　）

３　いかで、鳥の声もせざらむ山にこもりにしがな。（うつほ物語）

（　　　　　　　　　　　）

４　限りなく遠くも来にけるかな。（伊勢物語）

（　　　　　　　　　　　）

【古典常識】

問６　本文では、女性たちが戸の一種である「半蔀」に集まる場面がある。同じく寝殿造の設備の一つに「」があるが、これはどのようなものか。次から一つ選べ。

ア　朱色に塗装し、厄が邸内に入るのを防いだ北東の門。

イ　厚い土壁で仕切り、納戸や寝室として用いた部屋。

ウ　油を染み込ませた小枝を鉄製の器に入れ、るした明かり。

（　　　）

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝存続　イ＝打消　ウ＝推量　エ＝尊敬

②　Ａ＝あら　Ｂ＝あら

③　Ⅰ＝どこから（の手紙）と（主人に）申し上げようか

　　Ⅱ＝言うだろうか、いや言わない（はずだ）

問１　１＝容貌　２＝賞賛する

問２　１＝エ　２＝ア

問３　１＝ウ　２＝イ　３＝エ　４＝ア

問４　１＝よ・イ　２＝を・ア

問５　１＝人に知らせなさらないでほしい　２＝参上してほしい

　　　３＝こもりたいものだ　　　　　　　４＝来てしまったなあ

問６　イ

【現代語訳】

問２　１　帝も、藤壺の女御が（当日の舞楽を）ご覧にならないのを物足りなく思いなさるので、試楽（＝予行演奏）を御前でさせなさる。

２　こんなときにふさわしい思慮分別がある人々、なんのだれそれというすばらし

い源氏の武者たちを、お送りするのに添えなさった。

問３　１　失敗するな。注意して下りよ。

２　用があって行ったとしても、その事が終わったならば、早く帰りなさい。

３　この姿を見ると、たいへん悲しいなあ。

４　たいへんな目をお見せにならないでください。

問４　１　少納言よ、香炉峰の雪はどのようだろうか。

２　最後には行く（死出の）道とはかねてから聞いていたけれど、昨日や今日（そ

のときが来る）とは思わなかったよ。

問５　１　ここに私がおりますと、人に知らせなさらないでほしい。

２　「惟光よ、早く参上してほしい」とお思いになる。

３　なんとかして、鳥の声もしないような山にこもりたいものだ。

４　限りなく遠くへまでも来てしまったなあ。